



青年海外協力隊マレーシア会 22号

コロナの明けたマレーシア

小林 義文 58年3次隊 理学療法士

まるで、断食明けのように書いてしまったが、3年は長かった。今年の1月、思い切ってコタキナバル（KK）に行ってきた。3年をあけて訪問したKKは半分ほどの人がマスクを外していて、見た目は回復したようだが、あれほどいた観光客はとても少なかった。

今年65歳、協力隊に参加したときは25歳だったから、もう40年になる。27歳で帰国後地元に戻り、同じ隊員と家庭を持った。当時、“留学生受け入れ10万人計画”が始まり、アジアやアラブなどイスラム系大学生を支援した。と同時に、言葉を忘れたくないのと、仕事や研究のこともあり、途上国の福祉には興味が離れなかった。生後6カ月だった我が子を連れ（その後、小学校卒業まで続く）、アジア諸国の障害者福祉施設を回って歩いた。年に2回、1週間程度の日程で途上国の障害者福祉を訪問する活動は今日まで続いている。

2016年2月、アジア地域の福祉研究とその実践を生きがいとしてきた妻が亡くなった。彼女の実践研究を手伝うことが私の人生の半分であった私にとって、生き方そのものを見失った時期だった。日々の勤務はどうにかこなしていたものの、そのあと半年ほどは記憶がない。後で聞くと周りは随分と心配し、気を使ったようだ。直後の3月に研究を手伝ってくれていたKKの仲間に会い、これまでのお礼を述べたがそれ以上は体が動かなかった。その年の9月には、生前妻が行っていた研究を再開すべく気持ちを奮い立たせKKに降り立った。福祉施設を訪問し、友達とご飯を食べ、Kuala Penyuの小さなビーチホテルに泊まった。初めて会うオーナー、手伝い兼料理人のインドネシア人母子、バックパッカーのフランス人達とのたわいもない会話、そして南シナ海の繰り返す波の音をずっと聞いていたら突然自分を取り戻した。また、KKの安宿の食堂でご飯を食べていた時、インド系の家族が入ってきた。タミル系らしい真っ黒（失礼！）な女の子はとても毛深くて痩せていた。思春期らしい彼女は大変だろうなとかすかに思った（ルッキズム！）が、これは日本らしい考え方で、多民族で寛容なマレーシアではなんでもない。みんな人目を気にせず、自分をしっかり生きている。帰りの飛行機で思った。そうだ、オレは元の自分を生きていけばいいんだと。

そうしたら徐々に周りが見え始め、思慮が戻ってきた。その次の正月休みを使って、大学院の同級生を誘い、サバに行った。一人は車椅子を利用する若い女性、もう一人は長い間地域療育に関わった女性。3人でジャングルをレンタカーで回り、PDK と呼ばれる障害者デイサービスセンターをたくさん訪問し、ご飯を食べ、前述のビーチホテルで波の音を聞いた。戻ってから1年後再婚した。今は現在の妻とアジアの障害者福祉現場、関連学会などを訪問している。

武漢ではコロナが発生していたが、どこかまだ他人事だった2019年末から2020年の正月休みに向け、上海経由でトレンガヌに行った。ここはPDK発祥の地で、開始時から関わった元職員さんにどうしても会いたかった。高齢になった彼女にインタビューして（再会半年後に亡くなった）、設立当時の様子や最近のPDKに対する私見を伺った。すべての日程を済ませ、KLに戻り、昔の留学生と食事をしようと思った矢先、夫婦とも発熱した。コロナのことは知っていたが日本では症例がなかったし、詳細はもちあわせていなかった。とりあえず国内便を変更し、二日間ホテルで寝込んだ。帰国便は仕事の都合で変更できなかったのも、Panadolを多めに飲み強制的に解熱して日本にもどった。しばらくは地元で第1号になるのではと、ひやひやした日々を過ごしたが症状はでなかった。

春には、国内でも症例が増え始め、お互い鎖国状態になってしまった。このころは大学院博士課程に進学し、本格的にマレーシアPDK調査を開始している所だったから少し焦った。100年前は医療が発達していなかったのも回復に3年以上かかったが、今この時代なら1年ほどで終息するかと思っていた。今にしてみれば100年前とそれほど変わらない。私もコロナで親族を一人亡くした当事者だ。

さて、今回のマレーシア旅行で新しい出会いがあった。知り合いの医師がいるKKの総合病院を訪問し



た際、ストレッチャーに乗せられ人工呼吸器を装着している小さな子供とばったりでくわした。「えー！サバでも在宅人工呼吸器装着患者がいるのか！」と、心臓が飛び出るくらい驚いた。聞けば、出生後、コロナでワクチンの接種が受けられず、ポリオになったのだという。在宅人工呼吸療養患者の地域ケアは私のライフワークである。見つけてしまったという感じ。これからもマレーシアに行き続ける新しい理由ができた。次回はこの子を訪ねてTuaranに行こうと。

(写真 QEB 病院リハビリ部門にて)

****原稿募集！*****

会員の皆様、この会報は会員間の情報共有のために発行しています。任期中の活動、出来事、帰国後の活動、日々の暮らしなど、会員の皆さんに伝えたいことがあればいつでも原稿をお送りください。皆さんの活発な情報発信をお待ちしています。

第6回総会の開催を迎えて

青年海外協力隊マレーシア会
会長 白山 肇

マレーシア会員の皆様、いかがおすごしでしょうか。本号(21号)が皆様のお手元に届く頃は梅雨の時期、初夏の快い風を心待ちにしていることでしょうか。約3年半前(2019年12月)に中国湖北省武漢で、最初に新型コロナウイルス感染者が確認されました。それ以来世界を席卷したコロナ爆風は、77億を超える地球人に計り知れない恐怖を植えつけました。それまで世界を駆け巡っていた多くの政治・経済・生活一般の事業の多くが、停止・延期の憂き目にあっています。青年海外協力隊派遣事業も停止・見直しがされ、現在も多くの影響を受けています。2023年3月末現在、65カ国に一般・シニア・日系一般・日系シニアの派遣総数は813名、マレーシアへは一般13名・シニア5名の18名が派遣されています。この間、私たちのマレーシア会も総会・東北地域集会をはじめ予定・計画していた事業に影響が出てしまいました。第5回総会が、令和元年(2019年9月29日)に開催されました。コロナ発祥はこの年の12月に起こり、第6回を2021年に予定していましたが延期を余儀なくされました。毎年4月に実施されていた「協力隊まつり」は2020年は停止となり、2021年から再開され本会も出展・参加しています。この3年半の空白期間に継続して実施できた事業は、会員の方々の協力により「会報の発行」(16号から20号まで)です。この場をお借りし感謝申し上げます。

13年前の2010年秋に、有志による本会設立の準備会がもたれ120名を超えるOB・OGが広尾に結集、翌年に本会が誕生しました。それから12年が経過する中でクアラルンプール(KL)で開催された総会には50名近くの参加もあり、活動を支える会員の“ちから”を感じて参りました。しかし、ここ1~2回の総会への参加者数も半減しています。初代の隊員が派遣されて以来、半世紀以上がたちました。50有余年が経過する中で、諸々の環境が大きく変わってきました。受け入れ国の国情も変化し、また帰国した隊員の社会への還元という活動も問われる時代となってきました。過剰なまでの情報が飛び交う中、帰国隊員の活動は個人の意志力と実行力に依るところが大きくなり、スマートホンやパソコン機器によるインターネット利用、Facebook、Twitter、Line等のSNSが彼らの活動を支えています。何々会という組織集団は、少しずつ影を潜め、そのあり方が問われているのかも知れません。本会は会員相互の親交を目的に誕生しておりますが、会長をはじめ役員が多くが高齢化し、新しい思考が望まれているのかもしれない。来る第6回総会では、“継続は力なり”を實踐できる提言をお待ちしております。



総会はJICA市ヶ谷(地球ひろば)を会場に、2023年9月17日に開催されます。総会に引き続き、二人の講師による講演会と帰国報告会を予定しています。その後の懇親会では、3年半の空白を埋め合わすべき交流集会にしていきたいと祈願しております。ご多用の中、多くの会員の方々のご参集を期待しております。

第 6 回総会開催案内

第 6 回マレーシア会総会を下記の要領で開催いたします。今総会はコロナの影響で 2019 年以來 4 年ぶりの開催となります。できるだけ多くの方々の参加をお待ちしています。

日 時：令和 5 年 9 月 17 日（日）14 時 30 分～19 時 00 分

受付開始：14 時

場 所：JICA 市ヶ谷（地球ひろば）6 階 600

プログラム： 14:30 ～15:00 総会

15:00 ～16:30 講演会&帰国報告

講師：新井 卓治（日本マレーシア協会専務理事）

植村 明日香（平成 27.3 障害児・者支援）

17:00～19:00 懇親会 差し入れ歓迎！（地球ひろば内、J's カフェ）

懇親会費：一人 6,000 円、但しご夫婦で参加の場合は 10,000 円、子どもは無料です。

申し込み：電 話：090-7186-1065（8 月中のみ）

メール：malaysia@ics-together.com（常時）

郵 送：下記住所まで

162-8433 東京都新宿区市ヶ谷本村町 10-5

JICA 地球ひろば メールボックス 51

（注）会報の郵送会員には参加申し込みのしがきを同封しています。
ただし切手は各自でご負担ください。

申し込み締め切り：8 月末日

プログラムや開催要領は、国際協力サロンの web サイト（下記）上に随時、掲載いたします。

https://ics-together.com/office_jocvmalaysia.html

*****協力隊まつり 2023 出展*****

4 月 22 日/23 日に JICA 市ヶ谷（地球ひろば）で協力隊まつりが開催されました。オンラインで 13 団体、リアルで 37 団体の参加があり、マレーシア会もリアルで出展いたしました。久しぶりに多くの OB、OG、これからボランティアをめざす人など多くの参加があり、賑やかでした。マレーシア会は現役隊員の協力も得て、活動風景の写真掲示、マレーシアグッズの販売、オランウータンの森基金への募金などを行いました。募金は 6510 円集まり、（公社）日本マレーシア協会にお届けいたしました。まつりの写真の一部を掲載いたします。



マレーシア会会報記事索引(会報11号～20号)

号	タイトル		隊次・所属
11号	あの頃の思い出	金城 光男	元マレーシア駐在員
	「想い」を「行動」に変える教育を目指して	山藤 旅間	都立武蔵高校教諭
	現地の教員と協働の授業づくりを目指して	山田 奈緒	平成28年度1次隊
	ボルネオ隊員視察報告	坂部 修一	昭和55年度2次隊
	国際人への道、マレーシア	弓場 秋信	昭和47年度2次隊
	青年海外協力隊第4回総会案内	マ会事務局	
12号	The Impact of Japan-Malaysia Exchange Projects to the Young Generation	Shazlinda Md Yusof	Universiti Kebangsaan Malaysia
	やりっぱなしにしない国際協力を目指して	坪内 俊憲	ボルネオ保全トラスト運営委員
	新体操を通してたくさんの笑顔を作りたい	左近美沙紀	平成29年度1次隊 新体操
	朝飯何食べる？	牧野 嘉弘	昭和54年度4次隊
	第4回総会を終えて	白山 肇	昭和55年度1次隊 マレーシア会会長
	九州地区集会開催	マ会事務局	
13号	絵を通じての友好	尾池富美子	NPO法人メイあさかセンター代表理事
	マレーシア会近畿地区集会開催のお知らせ	マ会事務局	
	ボランティア活動の現場から	大内 広明	2017年度2次隊 電気・電子機器
	マレーシア教育省職員と情報交換・交流会開催！	武藤 正浩	平成24年度3次隊 ソーシャルワーカー
	元サバ州経済企画局JICA事業担当官の来日	竹前 雅子	昭和62年度1次隊 図書館司書
	マレーシア会会報記事索引 (NO.1)	マ会事務局	
14号	マレーシアの最新状況とロングステイ	宇田 耕三	昭和46年度3次隊 獣医師 フィリピン
	マレーシア会近畿地区集会開催報告	マ会事務局	
	常秋の国でキノコを作る	三田 岳	平成27年度3次隊 きのご栽培
	マレーシアとともに	植山明日香	平成27年度3次隊 障害児・者支援
	モロッコの食事	石川 淳司	昭和56年度2次隊 公衆衛生
	国際協力サロン-Together10周年記念講演会模様	マ会事務局	
15号	マレーシアへの協力隊派遣の変遷	渡邊 幸	JICAマレーシア事務所 企画調査員
	マレーシアでの日本語教育	渡辺 里保	2017年度2次隊 日本語教育
	マレーシアOB、自国生活の楽しみ方？	常木 春枝	昭和51年度1次隊 婦人子供服
16号	水泳と私	峰村 文世	平成9年2次隊 水泳
	第5回総会報告及び第5回総会資料	白山 肇	昭和55年度1次隊 マレーシア会 会長
17号	新型コロナウイルスによる避難一時帰国	伊藤有紀子	2018年度2次隊 障害児・者支援
	新型コロナの中、海外で、日本でOVIは		
	マレーシアから	四方 照美	平成6年度1次隊 理学療法士
	カナダから	志賀 典子	昭和55年度1次隊 幼稚園教諭
	カリフォルニアから	遠藤 浩史	平成9年度短期
	フィリピンから	島本 範幸	昭和54年度1次隊 自動車整備
	STAY HOME の日本で	中島 直樹	昭和49年度4次隊 電子機器
	オンラインで初の同窓会	藤原 講平	平成22年度2次隊 体育
	新型コロナ対応が早かった台湾で	中山 天志	平成23年度4次隊 コンピュータ技術
	再びのサバへ	飯塚 昌	昭和59年度3次隊村落開発(家畜飼育)
	一時帰国中・派遣前隊員の国内での活動について		協力隊事務局文書からの抜粋
あれから30数年、今も日本語教育の世界で…	坪山由美子	昭和59年度1次隊 日本語教師	
18号	協力隊の現状と展望「一時帰国から新たな挑戦へ」	小林 広幸	JICA青年海外協力隊事務局 事務局長
	あの時を遡って	亀山真奈美	2019年度1次隊 作業療法士
	新型コロナとベトナム	高梨 基久	昭和58年4度次隊 建築製図
	長旅、お疲れさまでした！	北村 豊	昭和51年度3次隊 歯科医師
	コロナで世界が小さくなった！	吉田 曜子	昭和61年度1次隊 日本語教師
	KL事務所を退職されたロシーダさんのメッセージ	Roshida	
19号	移住して発見した新たな夢	松倉はるか	平成19年度2次隊 環境教育
	マレーシアの名残り	小田島成良	昭和61年度2次隊 稲作
	児童養護施設で働く	竹前 雅子	昭和61年度1次隊 図書館司書
20号	協力隊創立時を思うとき	高橋 成雄	元広尾・駒ヶ根訓練所長
	最近思うこと	白山 肇	昭和55年度1次隊 マレーシア会 会長
	マレーシアへのJICA海外協力隊派遣状況	K.L.事務所	
	「俳句」楽しんでます	高澤 榮子	昭和59年度2次隊 幼稚園教諭

(注)各号最終ページの情報コーナーは省略しています

表彰、おめでとうございます！

JICA 海外協力隊帰国隊員社会還元表彰が創設され、当会の奥結香さん（2014 年度 2 次隊 障害児・者支援）が第一回帰国隊員社会還元表彰 地域活性化賞を受賞されました。隊員活動での経験をもとに「ひとりぼっちのいない地域社会を創る」活動に対して贈られました。5 月 13 日に JICA 市ヶ谷（地球ひろば）で表彰式が行われました。

ネパール・マレーシア

作業療法士活動報告会

協力隊ネパール会の主催で富山県出身隊員の活動報告会が開催されました。富山出身で 2021 年 7 次隊の高橋朗さんが「マレーシアの CBR における家族エンパワメントアプローチ」と題してオンラインで現地から報告されました。マレーシア会の会員の方も富山会場とオンラインで参加、発言があり、大変触発されるセミナーでした。

訃報

安川 一夫さん（昭和 54.4） 2023 年 1 月
ご逝去との知らせを受けました。
心よりご冥福をお祈りいたします。

編集後記

時代は chat GPT に時代に入り、AI が新しい時代を創っていく時期に入ったようです。AI が人間を救うと言う人もいれば、AI によって滅亡を招くと言う人もあり、まさに歴史の変わり目かもしれません。今後の世界がどうなるかと思うとワクワクするという方がいらっしやいます。不可解な事件も多く、ともするとネガティブな見方に陥りそうな昨今。物事をポジティブにみる力が必要かと思うこの頃です。

寄付のお礼・ありがとうございました！

関口幸美氏（昭和 52.1）より 94 円切手 20 枚の寄付をいただきました。寄付は随時受け付けております。

よろしく願いいたします。

振り込み先：

郵便局記号：10140 番号 51611341

（郵便局外から振り込みの場合：店番 018、
普通口座 5161134 です）

口座名義人：青年海外協力隊マレーシア会
代表 白山 肇

事務局からお願い：住所、メールアドレスを変更された時は下記連絡先までお知らせください。現在郵送で会報が届いている方で、パソコンのメールアドレスをお持ちの方もご連絡ください。メール会員として登録し、随時、共有情報をお届けします。

マレーシア会は国際協力サロン内に事務局を置きます。なお、この会報は青年海外協力隊マレーシア会会員と 2010 年の青年海外協力隊 OB/OG 会出席者に E メールもしくは郵送の形でお送りしています。配信を希望されない方はご連絡ください。また、会員は現在 630 余名となりました。まだ、会員登録されていない方には、是非マレーシア会のことお知らせください。

発行 青年海外協力隊マレーシア会
会長 白山 肇

162-8433

東京都新宿区市ヶ谷本村町 10-5

JICA 地球ひろば メールボックス 51

TEL：090-7186-1065（国際協力サロン）

MAIL：malaysia@ics-together.com

https://ics-together.com/office_jocvmalaysia.html

（ 2023.6.20 発行 ）